

## 信念と信仰

観音経には「念彼観音力」という同じ表現が十三回も出てきます。観音さまの威神力が、これでもか、これでもかと、次々と具体的な靈験を現して観音さまの偉大なパワーを見せつけるためです。

ところで、この「念彼観音力」という読み方には三通りあります。

「彼の観音の力を念ずれば」と読めば、他力たりにきになります。

「彼の観音を念ずる力」と読めば、自力じりにきになります。

「念ずる彼の観音の力」と読めば、妙力みょうりにきになります。

念は見えません。力になります。念に力を加えれば、念力の程度や性質が現れてきます。一俵のお米を運ぶとき、そのお米を他人の家に運ぶときは重く感じますが、しかしこの米俵が自分のものになって自宅へ運ぶのならば軽く感じるものです。

このように、念の性質によって力の働き方が変わります。この人生を、知力、権力、財力、腕力などで生きていく方法がありますが、これらの力の違いは、その人の念の使い方の現れといえましょう。

信念と信仰は、念の性質が微妙に異なります。

信念は自分の力量を固く信じて行なう「自力」に相当します。一方、信仰は正邪を分別するフルイの作用があり、神仏を絶対に信じる「他力」に該当します。この二つの力がうまくとけあつた状態が、不思議な体験、つまり「妙力」になるわけです。

信仰がなく信念だけで生きている人は、調子のいいときはよろしいが、行き詰まればたちまちウロウロとして正しい判断を失ってしまいます。また反対に、信仰だけの人は、あまりにも依頼心が強すぎて、他人のいいなりになり、だまされやすいようです。

しかし、信念と信仰の両方があれば車の両輪です。深刻なアクシデントにあっても、心の広さと温かさを失わない人であります。信念はこの世をしっかりと泳いでいく帆であり、信仰は誘惑や正邪を認識する航路です。信念と信仰をうまく両立させている人は、観音さまからの不思議な妙力をいつも感じておられるはずです。